

新たな地域クラブ実証事業

中学校における陸上クラブ部活動の地域化

特定非営利活動法人 スポーツコミュニティ久喜

当クラブのご案内

- ① 特定非営利活動法人として、2005年3月設立
- ② 翌年4月、総合型地域スポーツクラブとして埼玉県東部地区における最初のクラブとして埼玉県から認定を受ける。
当初の活動種目は、ジュニアサッカー、エアロビ教室の2種目からスタート、その後、ヨガ教室、健康体操教室を開始
- ③ 2009年日本スポーツ振興センターからの助成開始
- ④ 2012年ジュニアソフトテニス創設、翌年ジュニア陸上クラブを、2015年キッズダンススクールをそれぞれ創設

- ⑤ 2020年サッカー部門を分離
- ⑥ 2022年かけっこ教室創設
- ⑦ 2024年陸上部門・キッズダンス部門において中学部門設立準備中
現在に至る。

◎ **設立の趣旨（クラブミッション）**

誰もが、いつでも、どこでも、参加できるスポーツの場を提供するクラブを目指します。

●総合的なスポーツ施設を地ん競域の中で運営し、地域のスポーツ環境の改善を目指します。

●地域の中にクラブハウス

を持ち、地域の人々の居場所づくりを目指します。

●目標は、地域でスポーツライフを楽しむいきいきとした元気なコミュニティづくりです。

実証事業の計画と実際(1)

前提 少子化 及び異常気象という現実を踏まえて

(方針) 少子化という現実への認識への対応（コロナ禍で加速）

- ・ 陸上競技について、中学部活動を学校部活から地域部活化を進める。
- ・ 中学校の施設でなく、総合運動公園等の専用施設を使用
- ・ 専門講師(年4回) やトップアスリート(年1回) の活用
- ・ 中学校単位でなく地域全体の部活動（中学部）として活動を行う。

(練習計画) 温暖化という現実への認識

- ・ 毎週土曜日午後 暑さ対策の実施（木陰の活用、クール用品の整備）
- ・ 学校だけでなく地域全体へのPRの強化

(実際)

- ・ 円滑に対応出来た。中学部員が少しずつ増加

実証事業の計画と実際(2)

(事業計画との対比)

- ・暑さ対策は上手くいった。SNSの利用効果が地味だが部員増につながっている。
- ・専門講師やトップアスリートの招聘は非常に好評。
- ・指導者の雇用は、今年は上手くいった（特に、サブコーチ）が、来年度以降は不安
- ・メインの練習会場の突然の利用不可事態の発生は想定外
- ・煩雑な事務処理
 - ①複雑な謝金等の事後処理
 - ②急に要求される煩雑な報告書類
 - ③急に出された国からの謝金等の単価

(課題)

- ・助成対象期間外への対応
4月～6月、2月・3月 そのままという訳にはいかない。対策が考えられていない。

陸上専門指導者による指導



宮坂楓選手招聘練習会



その他事業執行上の課題

- ・ 久喜市教育委員会の対応
 - ①情報共有意識の欠如(秘密主義)、協働意欲が欠如
 - ②運営主体を変更させる意欲の欠如、
 - ③やっていることは外部指導者の雇用のみ、令和8年度からは市長部局に移譲
- ・ 情報管理の共有化
 - バラバラな施策（教育員会・市長部局・総合型クラブ）
- ・ 小学校への情報提供の不備
- ・ 事務処理の簡素化（不正防止が重点の事務処理・報告）
- ・ 高校進学時の内申点との関係の明確化
- ・ **運営管理ということの重要性への認識不足（地域化の成功は運営管理がうまくいくかが鍵）**

中学部活動の未来に向けて

- 生き生きと生きる子ども達の居場所づくり・仲間づくりが私共どもの使命です。
- そのため、子ども達が思いっ切り大きくのびのびと自己主張できる環境をつくる。
- 少子化が加速・異常気象が恒常化する中で、部活動の地域化の成功は未来を担う子ども達への責務と私どもは考えています。

ご清聴ありがとうございました。